

開園時に公開制作を行うことで来場者に対して市民の力で動物園を支えようとする姿を示すことができた

DETC

活動の目的

デザインを学ぶ学生が地域課題に取り組み、自身の専門分野を活かして貢献できることを目的としている。誰かのために自身の専門性を惜しみなく使うこと。それが多様な在り方を相互に認め合える共生社会を目指す上で必要な観点である。専門スキルを持って関わることで地域コミュニティの中での役割を担い、学生個人のアイデンティティの育成に繋げていく。

活動の内容及び経過

池田動物園の敷地内にトリックアートを増設する内容から始まった。5月からミーティングを重ね、6月後半にデザイン案が決定した。7月から制作メンバーを集め実制作を開始。猛暑と天候により多少のスケジュールの変動はあったが学生の体調管理を徹底しながら制作を進めていった。8月初旬には下絵が完成し、8月後半にかけて着彩が50%くらいできていた。7月8月は学生が夏休みだったこともあり、毎回5~6名の人数で制作ができていた。9月以降は授業が再開されたので、デザインを担当したメインの学生が中心に少しずつ仕上げていった。その後の制作は授業の合間を縫って行ったので制作ペースはゆっくりとなり完成したのは11月後半となった。作品完成後は来場者に配布用のポストカードを300枚制作。1月1日10:00から来場者に無料配布した。

活動の成果・効果

制作期間は予定よりも長くなったが、その分来場者とのコミュニケーションも様々な形で行うことができた。来園者も頻繁に「可愛いデザインですね。」「以前よりもすずみましたね。」「写真撮っても良いですか?」と比較的よく話しかけてくれるので、学生が動物園で制作している理由も含め説明をしていた。そういった場面対応が学生のコミュニケーション能力を養うことにも繋がっている。学生のデザインで学生が制作しているので、業者ではなく市民が取り組んでいる姿を示すことができた。また秋は保育園児の来園も多く、園児と共同作業する場面もあった。そういった面では完成した作品が成果として影響を与えるだけでなく、公開制作が市民に対して発信していく場となったと思われる。池田動物園に関わることになった日本テレビの制作スタッフも、東京から偶然来たこともあった。番組終了した後も活動が続いていたことに対して喜んでくれていた様子だった。またポストカードの配布に関しては、元旦に学生が来場者に直接配布をしていった。ポストカードの反応も良く、園を回っているときに作品に気づくきっかけに



もなっている。元旦の来場者は思ったよりも多く午前中には全て配布が終了した。

今後の課題と問題点

今回のトリックアートは、地面に巨大に描かれているので全貌を見るためにはスカイサイクルに乗る必要がある。(一人300円) 滞在制作をしている時に気がついたのは、スカイサイクルを利用する人がかなり少ないことだった。おそらく認知度も低いのだと思う。課題としてはスカイサイクルを認知するための仕掛け(イベント企画)などを行い、利用者を増やし、動物園の楽しみ方を提案していくこともさらに必要だと感じた。

- 代表者：花田洋通 ●所在地：岡山市北区船頭町
- TEL：086-225-0791
- URL：<https://www.cdc-de.ac.jp/teacher/2019/12/post-354.html>
- 設立年：2018年 ●メンバー数：4名